

## ■室蘭工業大が途中棄権。春季オープン戦が終了

春季オープン戦最終日は7月13日、札幌市円山競技場で1試合を行い、北海学園大（昨秋の道学生選手権優勝）と室蘭工業大（同4位）が対戦。北海学園大が前半を終えて35-7とリードしたところで、室蘭工業大が途中棄権した。春季オープン戦はこれで全日程を終了した。

試合は、北海学園大が第1Q6分、RB北脇瑠依（1年）の40ヤードランで先制。同10分にはQB成田滉佑（4年）からWR八乙女凌太郎（4年）への25ヤードパスで14-0とした。第2Qは3分にRB北脇の34ヤードラン、10分にQB成田からRB北脇への8ヤードパス、11分にはQB成田からRB末广大貴（2年）への45ヤードパスでリードを広げた。



室蘭工業大は第2Q2分、CB安田進之助（1年）がパスインターセプトから21ヤードのリターンTDで7-14としたが、反撃もここまで。前半を終えた時点で熱中症の危険が高まったことなどから棄権を申し出た。

北海学園大の高木幸樹HCは「新人が多いので難しいチーム作りの春になった。RB北脇は足の速さが魅力。秋に向けてDLを鍛えたい」とオープン戦を総括。3TDのRB北脇は「先週の釧路公立大戦のTDは、OLとWRのブ

ロックに助けもらった。今日は自分のカットバックでTDが取れた」と成長をアピールした



室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「札幌の暑さに負けた。体力面の強化が必要」と課題を挙げ「QB原田颯太（3年）とWR西京介（2年）のホットラインが良かった」と収穫も強調した。インターセプトリターンTDのCB安田は「ボールが向こうから飛んできて、あれ、取ったという感じ。前が空いていたので走った。TDの瞬間にみんなが集まって喜んでくれ、気持ち良かった」と大喜び。第2Q4分にチーム2つめのインターセプトを決めたSF澤出柊（4年）は「せっかく流れを変えるチャンスだったのに、反撃につなげられなかった」と悔しがった。

（学連広報委員 塚田博）